

ナシ園の植生変化と花粉症対策の空中花粉・微生物カレンダー作り

○林 節男（富山県立大学短大部）、寺西秀豊（富山大学医学部公衆衛生学教室）

1. はじめに 高品質で大きなナシ果実の生産のために、人工授粉と果樹園の草生管理が推奨されている。一方、2001年に富山市k地区のナシ生産者に対して、実施した花粉症アンケート調査では、4～5月の時期を中心に3割強の生産者が、花粉症または類似症状を訴えていた。本調査では季節毎に、栽培管理作業に伴うナシ園の植生変化と空中花粉・微生物などを調べ、そのカレンダーを作成し、花粉症対策の一助とすることを目的とした。

2. 調査方法 調査場所：丘陵地にある富山市k地区の都市近郊型ナシ園。 期間：2002年～2006年、早春から夏の収穫時期まで。調査項目：ナシ生長、下草、空中微生物（パーソナル・エアサンプラー）、花粉症アレルギー日誌（調査ナシ園で働き、ナシ園の花粉IgE抗体検査で陽性反応を示す作業員）

3. 調査結果とカレンダーの試案

3月 4月中～下旬 5月 6月 7～8月

<ナシ花の生長> ←つぼみ→ ←ナシ開花→ 結実 → 肥大 → 肥大 →成熟

<下草> ← 生長・繁茂（除草） → 裸地化 → 再生・繁茂（除草） → 裸地化

- ・早春に下草スズメノカタビラは開花し、空中花粉が大量に観察された。繰返し機械除草でも初夏まで再生してくるが、漸次、草勢は衰えた。変わって背の高いイチゴツナギ、カモジクサ等のイネ科の下草が主になり、7～8月にはナシ園管理（除草・防除）機械の踏み付けにも強いオオバコが残った。
- ・ナシ花粉と石松子（花粉増量剤：ヒカゲノカズラの胞子）は授粉時に、大量に観察された。
- ・ナシ園の花粉以外にも、3～4月頃には、周辺からのスギやマツの花粉が多く観察された。
- ・6～7月頃には、花粉に混じって、大量のカビ（アレルゲンである *Alternaria* 等）や土壌線虫も空中に観察された。

試案：ナシ園の空中花粉・微生物カレンダー

季節変化と管理作業により

